

HP Network Automationソフトウェア

Windows®およびLinuxオペレーティングシステム向け

ソフトウェアバージョン: 10.00

リリースノート

ドキュメントリリース日: 2014年8月

ソフトウェアリリース日: 2014年5月



ご注意

保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR 12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2011–2014 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe® は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標です。

AMDはAdvanced Micro Devices, Inc.の商標です。

IntelおよびItaniumは、Intel Coporationの米国およびその他の国の登録商標です。

Microsoft®およびWindows®は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

OracleとJavaは、Oracle Corporationおよびその関連会社の登録商標です。

Red Hat®はRed Hat, Inc.の米国およびその他の国における登録商標です。

UNIX®は、The Open Groupの登録商標です。

Oracle Technology — Notice of Restricted Rights

Programs delivered subject to the DOD FAR Supplement are 'commercial computer software' and use, duplication, and disclosure of the programs, including documentation, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement. Otherwise, programs delivered subject to the Federal Acquisition Regulations are 'restricted computer software' and use, duplication, and disclosure of the programs, including documentation, shall be subject to the restrictions in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software-Restricted Rights (June 1987). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

Oracleの完全なライセンステキストについては、NA製品DVDのlicense-agreementsディレクトリを参照してください。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに更新されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの登録は、次のWebサイトから行なうことができます。<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

または、HP Passportのログインページの[New users - please register]リンクをクリックします。

適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

サポート

HPソフトウェアサポートオンラインWebサイトを参照してください。 <http://www.hp.com/go/hpsupport>

このサイトでは、HPのお客様窓口のほか、HPソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HPソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HPソフトウェアサポートのWebサイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport IDを登録するには、次のWebサイトにアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

アクセスレベルの詳細については、次のWebサイトをご覧ください。

http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp

HP Software Solutions Nowは、HPSWのソリューションと統合に関するポータルWebサイトです。このサイトでは、お客様のビジネスニーズを満たすHP製品ソリューションを検索したり、HP製品間の統合に関する詳細なリストやTILプロセスのリストを閲覧することができます。このサイトのURLは <http://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp> です。

目次

| | |
|--|----|
| 目次 | 4 |
| HP Network Automationソフトウェアリリースノート | 5 |
| 本リリースの新機能 | 6 |
| 本リリースでの修正 | 10 |
| 既知の不具合 | 18 |
| 2014年8月:その他の既知の不具合 | 18 |
| 2014年7月:その他の既知の不具合 | 18 |
| 本リリースの既知の不具合 | 19 |
| お客様からのご意見、ご感想をお待ちしています。 | 38 |

HP Network Automationソフトウェアリリースノート

Windows®およびLinuxオペレーティングシステムオペレーティングシステム向け

ソフトウェアバージョン: 10.00

発行日: 2014年8月

本書では、HP Network Automationソフトウェア(NA)への変更内容を概要でまとめています。他の製品ドキュメントには記載されていない重要な内容が記載されています。本書では、次の内容について説明します。

- 「本リリースの新機能」(6ページ)
- 「本リリースでの修正」(10ページ)
- 「既知の不具合」(18ページ)

『NAサポートマトリックス』には、システム要件と他の製品との互換性に関する情報が記載されています。『NAサポートマトリックス』は、NAインストーラーに付属し、次のHP製品マニュアルWebサイトで入手できます。

<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>

NA 10.00には、2014年3月のドライバパックが付属します。新しいドライバパックは、本バージョンのNAと互換性があります。

このドキュメントは、新しい情報が加わり次第、更新されます。更新状況、およびご使用のドキュメントの最新版は、次のサイトで確認できます。

<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>

本リリースの新機能

NA 10.00には、次の新機能と拡張が追加されました。

- NAタスクの向上：
 - リポートタスクは、リポートタスクの完了を通知する前にデバイスのリポートが完了したかどうかチェックすることができます。
 - ソフトウェアの更新後、デバイスのリポートをグローバルに無効化するオプションが新しく追加されました。
 - グループタスクをシリアルモードで実行可能になりました。これにより、1つのデバイスでタスクが完了してから、次のデバイスでのタスクを開始します。
 - 修正プログラムの配布タスクが新しく追加されました。
 - 水平スケーラビリティまたはマルチタスク分散システム環境で、実行中のタスク、最近のタスク、タスク情報の各ページに、関連のNAコアが表示されるようになりました。
 - 複数のデバイスで実行する場合のデバイスソフトウェアの更新タスクが改善されました(NA 9.22で提供)。
 - スナップショットタスクが最適化されました(NA 9.21で提供)。
 - VLAN診断タスクが最適化されました(NA 9.21で提供)
 - タスクスケジューリングが改善されました(NA 9.21で提供)。
 - モニタリング
 - 安定性
 - [タスク負荷]ページ
 - タスクのキャンセル
 - メモリ管理
 - タスクのタイミングとエラータイプなど、タスクの検索オプションが新しく追加されました。

詳細については、『NAユーザガイド』のバージョン10.00を参照してください。

- リソースID管理
 - NA 9.22で提供される初期機能
 - NA 10.00で提供されるレポート機能

詳細については、『NAユーザガイド』のバージョン10.00を参照してください。

- 削除されたユーザ名はNAデータベースに残ります。これにより、NAにアクセスできなくなっているユーザが行った変更内容も表示されます。
- 水平スケーラビリティが改善されました(NA 9.21で提供)。
 - 1つまたは複数のNAコアをユーザ操作に予約します。
 - 水平スケーラビリティ環境でタスクのフェイルオーバーを自動化します。
 - タスク関連のページにNAコア名が追加されました。
 - [コアリスト]ページにコアステータスが表示されます。

詳細については、『NA Horizontal Scalability Guide』のバージョン10.00を参照してください。

- NAサテライト機能でIPv6がサポートされます。
- NA 10.00では、すべてのユーザに新規ライセンスキーが必要です。
- Java 7へのアップグレード
- HP Network Node Manager i Software(NNMi) との統合が改善されました。
 - 水平スケーラビリティ環境のスタンドアロンNAまたはNAと、グローバルネットワーク管理環境内で稼働する複数のNNMi管理サーバを統合できるようになりました。ほとんどの配布において、すべての統合機能がサポートされます。
 - NNMiノードフォームに新しいタブが追加されました。このタブの分析ペインにはNAコンプライアンス分析データが表示されます。
 - NAパーティション内のデバイスと、NNMiセキュリティグループ内のノードの同期動作が修正されました。
 - NNMi分析ペインのNA情報にNNMiユーザのアクセスを制限する設定が改善されました。
 - 複数のNNMi管理サーバへの接続に関する情報
 - 非稼働サービス完了遅延
この遅延により、NAのタスクによって停止したデバイスが復旧します。

詳細については、バージョン10.00の[システム管理設定 - NA/NNMi統合]ページの『NAユーザガイド』の内容と、バージョン10.00の『HP Network Node Manager i Software–HP Network Automation Integration Guide』を参照してください。

- PKIユーザ認証 (NA 9.22で提供)。
 - 共通アクセスカード (CAC) または個人識別情報の検証 (PIV) スマートカードを使ったNAへのログオンが有効になりました。
 - 証明書ベースの資格情報の、サポートされるタイプが追加されました。詳細については、『NA Administration Guide』のバージョン10.00を参照してください。
- 大規模なデバイス構成を比較する際のパフォーマンスが向上しました (NA 9.21で提供)。
- ドライバの改善
 - サポート対象の仮想デバイスが増えました。
 - IPv6のサポートを追加しました。
 - OpenFlow対応スイッチのサポートが追加されました。
 - OpenFlow対応コントローラのサポートが追加されました。
 - リポートタスクのICMPテストを有効にすることで、デバイスブートが完了したタイミングを確認できるようになりました (一部デバイスのみ)。
- オペレーティングシステム、データベース、Webブラウザのサポートリストが変更されました。
詳細については、『NAサポートマトリックス』のバージョン10.00を参照してください。
- OracleデータベースまたはMicrosoft SQL ServerデータベースにNAをインストールおよび実行する操作を、完全なデータベース管理者権限がなくても実行できるようになりました。
詳細については、『NA Administration Guide』のバージョン10.00を参照してください。
- ユーザから寄せられた改善要請 (NA 9.22で提供)。
 - CLI/APIの改善の一部：
 - 入力時にパスワードが非表示になるように、コマンドが変更されました。
 - ユーザロールを作成、編集、削除するコマンドが新しく追加されました。詳細については、『NA CLI/API Command Reference』を参照してください。
 - 検索機能の拡張：
 - デバイス検索でIPアドレスの範囲を指定できるようになりました。
 - 最新の診断のみを検索する機能が追加されました。
 - NAが特定のルールに関するコンプライアンスに違反しているデバイスを検出した日時を検索する機能が追加されました。

- NAコンソールの改善：
 - 構成またはスクリプトテキストのテキストボックスを必要に応じて拡張できます。
 - [ポリシーのインポート/エクスポート]ページですべてのスクリプトまたは診断を選択できるようになりました。
 - syslogメッセージによって[構成管理]ページの[変更検出タスクの優先度]フィールドが開き、スナップショットタスクの優先度を設定できるようになりました。
- SSH対応デバイスでの秘密鍵認証をサポートします。
- 一部のデバイスタイプで、デバイスモジュールコンポーネントのIDと階層構造が表示されます。
- 診断ルールでは、カスタムフィールドと拡張カスタムフィールドを使用するフィルタ条件を含めることができます。
- NAは、グループタスクで、タスク単位ではなく、親タスクのレベルで電子メールメッセージを1つ送信できるようになりました。
- \$TaskDevice\$変数で、記号区切りのリストを指定できるようになりました。
- NA付属のFTPサーバとTFTPサーバが使用するポートを設定できるようになりました。
- セキュリティの向上：
 - Windowsオペレーティングシステムで、64ビットRSA SecureIDがサポートされます。
 - NAコンソールへのログイン後すぐに、失敗したログイン試行のメッセージが表示されます。

本リリースでの修正

修正された各不具合の参照番号は、変更要求(QCCR)番号です。修正された不具合の詳細は、[HPソフトウェアサポートオンライン](#)にアクセスするか、HPサポート担当者に直接お問い合わせください。

本リリースで修正された不具合

| 不具合 | 説明 | 変更の対象 |
|--------------|--|---------------|
| QCCR1D66145 | 監査ログが正常に動作しない | スケジューラ |
| QCCR1D86435 | 一部のコマンド権限の説明がない | ドキュメント |
| QCCR1D99187 | ソフトウェア監査証跡のデバイスソフトウェアレベルが更新されない | ポリシーマネージャ |
| QCCR1D99886 | APIセッションIDに英数字の文字列を使用する | CLI |
| QCCR1D108957 | CLIインポートが正しくドキュメントに記載されていない | CLI |
| QCCR1D118755 | スタートアップとランニングの同期タスクを実行しても、デフォルトで、非同期状態の警告が更新されない | デバイス管理 |
| QCCR1B89676 | NA SyslogサーバからNAコアにSyslogメッセージを転送する方法をドキュメントに記載 | ドキュメント |
| QCCR1B92454 | Perlの診断スクリプトが全く実行されない | スケジューラ |
| QCCR1B93556 | list groups CLIコマンドのヘルプで、-typeオプションの説明に誤りがある | CLI |
| QCCR1B94974 | サポートマトリックスに、SUSEのサテライトのサポートが表示される | ドキュメント |
| QCCR1B95996 | NA上のTFTPサーバが無効または稼働していない状態でも、Satellite Monitorが動作する | ゲートウェイ |
| QCCR1B96076 | Syslog変更を検出するDNS検索が低速 | 変更の検出 |
| QCCR1B102382 | API結果の最後に成功したスナップショットの日付で問題が発生する | デバイス管理 |
| QCCR1B106474 | 一部のコマンドスクリプトを実行すると、タスクに含まれていないデバイスで子タスクが生成される | コアアプリケーションサーバ |
| QCCR1B106652 | お気に入り追加機能が正常に動作しない | NAコンソール |
| QCCR1B107153 | 診断テキストと構成テキストの検索結果が1000の有効なレコードに制限される(診断テキストの列には「このデバイスの構成が見つかりませんでした」と表示) | レポート作成 |
| QCCR1B107877 | ポリシーシステムが、解析不能なロジック条件を受け入れる | ポリシーマネージャ |

本リリースで修正された不具合 (続き)

| 不具合 | 説明 | 変更の対象 |
|--------------|---|--------------------------|
| QCCR1B108700 | 第 508 条 への 準 拠 : 色 で 表 さ れ る 情 報 は テキ ス ト で も 表 示 す べ き | NA コンソール |
| QCCR1B108701 | 第 508 条 への 準 拠 : す べ て の 画 像 は 同 等 の 意 味 の テキ ス ト を 持 つ べ き | NA コンソール |
| QCCR1B108711 | イ ベ ン ト の 検 索 結 果 ペ ー ジ の [説 明] フ ィ ー ル ド に HTML タ グ が 表 示 さ れ る | レポ ー ト 作 成 |
| QCCR1B108756 | 表 示 権 限 を 持 つ ユ ー ザ が、 デ バ イ ス へ の 接 続 に 使 用 す る IP ア ド レ ス リ ス ト の 順 序 を 変 更 で き る | ユ ー ザ 管 理 |
| QCCR1B108893 | メ ニ ュ ー の カ ス タ マ イ ズ 機 能 に 関 す る ド キ ュ メ ン ト に 誤 り が あ る | ド キュ メ ン ト |
| QCCR1B108964 | 第 508 条 への 準 拠 : す べ て の グ ラ フ ィ カ ル ボ タ ン に ス ク リ ー ン リ ー ダ ー の 説 明 が あ る べ き | NA コンソール |
| QCCR1B109135 | 第 508 条 への 準 拠 : ス ク リ ー ン リ ー ダ ー の 使 用 時 に、 フ ォ ー ム の 作 成 と 送 信 を 行 う | NA コンソール |
| QCCR1B109173 | 第 508 条 への 準 拠 : ス ク リ ー ン リ ー ダ ー 向 け に、 行 と 列 の ヘ ッ ダ ー に セ ル の 内 容 が わ か る 説 明 を 追 加 す る | NA コンソール |
| QCCR1B109351 | 第 508 条 への 準 拠 : 期 限 切 れ が 迫 っ て い る NA コンソール セ ッ シ ョ ン で、 タイ ム ア ウ ト の 警 告 を カ ウ ン ト ダ ウ ン で 表 示 す る | NA コンソール |
| QCCR1B109420 | 第 508 条 への 準 拠 : マ ウ ス で ア ク セ ス で き る す べ て の イ ン タ ー フ ェ イ ス 要 素 と 機 能 を、 キ ー ボ ー ド で も ア ク セ ス で き る よ う に す る | NA コンソール |
| QCCR1B109423 | デ バ イ ス グ ル ー プ が 重 複 表 示 さ れ る こ と が あ る | デ バ イ ス グ ル ー プ |
| QCCR1B109459 | 予 期 し な い モ ジ ュ ー ル の 変 更 イ ベ ン ト : ">HardwareRevision: blank => blank | 通 知 と 電 子 メ ー ル |
| QCCR1B109891 | テ ン プ レ ー ト と し て 保 存 さ れ て い る プ ロ ビ ジ ョ ー ニ ン グ タ ス ク が 動 作 し な い | NA コンソール |
| QCCR1B110332 | 詳 細 検 索 で 保 存 し た レポ ー ト を 変 更 し て も、 初 期 フ ィ ル タ を 取 得 で き な い | レポ ー ト 作 成 |
| QCCR1B110600 | ゲ ー ト ウ ェ イ リ ス ト ペ ー ジ の 結 果 に 整 合 性 が な い | コ ア ア プ リ ケ ー シ ョ ン サー バ |
| QCCR1B110725 | 重 複 ま た は ス キ ッ プ し た タ ス ク の 説 明 に 矛 盾 が あ る | ド キュ メ ン ト |
| QCCR1B110748 | 特 定 の 条 件 下 で タ ス ク が 停 止 す る | コ ア ア プ リ ケ ー シ ョ ン サー バ |
| QCCR1B111512 | CSV フ ィ ー ル ド サ イ ズ が 有 限 | レポ ー ト 作 成 |
| QCCR1B111592 | デ バ イ ス の パ ー ティ シ ョ ン を 変 更 す る と、 そ の デ バ イ ス が 静 的 デ バ イ ス グ ル ー プ か ら 削 除 さ れ る | デ バ イ ス 管 理 |

本リリースで修正された不具合 (続き)

| 不具合 | 説明 | 変更の対象 |
|--------------|--|---------------|
| QCCR1B111650 | アクティブなデバイスのみデータを返すオプションを、show_device APIコマンドに追加 | デバイス管理 |
| QCCR1B111796 | コマンドスクリプトの変数に空白文字を指定できない | CLI |
| QCCR1B112015 | データタイプCollection:CustomVariableは、show_device_template_config_variables APIコマンドでデータを提供しない | CLI |
| QCCR1B112080 | NAコンソールへのログイン後にサーバエラーが発生する | コアアプリケーションサーバ |
| QCCR1B112291 | SSHコアライブラリが誤った文字を生成することがある | プロキシインターフェイス |
| QCCR1B112318 | [イベントルールの表示]権限オプションが見つからない | ドキュメント |
| QCCR1B112444 | イベントルールの表示コマンドの権限に関する説明が、ヘルプから削除されている | ドキュメント |
| QCCR1B112526 | デバイスのプロビジョニングを行うAPIコマンドの-nocomplianceオプションが正常に機能しない | ポリシーマネージャ |
| QCCR1B112804 | タスクが2回実行される | スクリプトと診断 |
| QCCR1B113190 | コマンドスクリプトセッションログが正しく表示されない | NAコンソール |
| QCCR1B113688 | 古いL1トポロジーデータが最新とマークされる | コアアプリケーションサーバ |
| QCCR1B114002 | ポリシー準拠の確認タスクは、多数のデバイスに実行すると失敗するが、数が少ないと成功する | ポリシーマネージャ |
| QCCR1B114209 | 動的デバイスグループの[グループの編集]ページには、拡張されたカスタムフィールドが表示されない | デバイスグループ |
| QCCR1B114249 | スナップショットが失敗した場合にイベントルール(SNMPトラップ)をトリガする方法の提供 | 通知と電子メール |
| QCCR1B114429 | トポロジー診断で、既存のトポロジーレコードの相互参照IDが正しく更新されない | デバイス管理 |
| QCCR1B114493 | タスク検索を変更できない | 検索 |
| QCCR1B114684 | NA消去範囲の条件がないと、ポリシー範囲に例外を追加できない | ポリシーマネージャ |
| QCCR1B115319 | 管理者がlist module -group cliコマンドを実行すると、ユーザIDが1である場合を除いてエラーが発生する | コアアプリケーションサーバ |

本リリースで修正された不具合 (続き)

| 不具合 | 説明 | 変更の対象 |
|--------------|---|---------------|
| QCCR1B115324 | イベント通知とレスポンスルールを開こうとすると、UserID1で例外が発生する | NAコンソール |
| QCCR1B115491 | NAコンソールで、ブートステートメントを単一のデバイスに設定できるが、イメージ配布コマンドでAPI/CLIを使用する場合、このオプションは使用できない | CLI |
| QCCR1B115665 | マルチバイトの拡張カスタムフィールド名を持つデバイスをインポートすると失敗する | インポート |
| QCCR1B115785 | CLIがデバイスアクセスでSFTPをサポートしない | プロキシインターフェイス |
| QCCR1B115793 | 管理ユーザがlist_groups(type => 'device') APIコマンドを実行すると、他のユーザの専用グループが返されない | スクリプトと診断 |
| QCCR1B115827 | 電子メール通知でUTF-8文字を使用する場合、中国語のポリシー名とルール名が誤って表示される | 通知と電子メール |
| QCCR1B115848 | [同期している場合は無視]オプションを選択すると、スタートアップとランニングの同期タスクが正常に動作しない | デバイス管理 |
| QCCR1B115940 | 制限ユーザはコマンドスクリプトの結果を表示できない | セキュリティ |
| QCCR1B115993 | デバイスのCSVテンプレートを使用してデバイスのインポートタスクを実行すると、デバイスが実行されない | インポート |
| QCCR1B116037 | SNMPコミュニティ文字列が、トポロジーフィルタノードグループ以外のデバイスで、NNMi固有のノード設定に反映される | NAS/NNMi統合 |
| QCCR1B116260 | F5 BIG-IPに、ドライバと互換性のない長いプロンプトが表示される | コアアプリケーションサーバ |
| QCCR1B116339 | インストーラーを実行すると、[公開鍵認証を有効にする]がデフォルトで有効になり、デバイスアクセスでssh2が失敗する | インストーラー |
| QCCR1B116555 | モジュールステータス診断にエラーが発生した場合にステートメントを削除する | IP処理 |
| QCCR1B117019 | デバイスグループを編集するとブラウザセッションがリソクする | デバイスグループ |
| QCCR1B117111 | プログラムを実行できない: "vmware-toolbox"(/opt/NA/client/hyperic-sigar-1.6.5/sigar-bin/libディレクトリ内): error=2、ファイルまたはディレクトリが存在しません | コアアプリケーションサーバ |
| QCCR1B117188 | Oracleサービス名を使用するとアップグレードが失敗する(SIDは使用可能) | データベース |
| QCCR1B117216 | プロンプトのタイムアウトでNexus検出が失敗する | コアアプリケーションサーバ |

本リリースで修正された不具合 (続き)

| 不具合 | 説明 | 変更の対象 |
|--------------|---|---------------|
| QCCR1B117287 | Java APIの問題 : siteName | コアアプリケーションサーバ |
| QCCR1B117330 | Oracleのタスクタグのインデックス作成構文に誤りがある | インストーラー |
| QCCR1B117384 | ログインのsplashページのヘルプアイコンをクリックしてもヘルプが表示されない | NAコンソール |
| QCCR1B117486 | モジュールの追加/変更/削除イベントの説明が空欄 | コアアプリケーションサーバ |
| QCCR1B117700 | NAポリシーCLIで-Siteオプションを指定してポリシーを作成しようとする と失敗する | ポリシーマネージャ |
| QCCR1B117999 | PerlスクリプトではNA CLIの参照を直接使用できない | ドキュメント |
| QCCR1B118108 | 一部のAPIコマンドで"-retryInterval"または"-retryCount"を指定すると 失敗する | CLI |
| QCCR1B118145 | デバイスソフトウェアの更新タスクのエラーメッセージに解決されない変数 がある | デバイス管理 |
| QCCR1B118229 | デバイス構成テンプレートを削除できない | テンプレート |
| QCCR1B118262 | task.csvファイルの説明を追加 | ドキュメント |
| QCCR1B118649 | NAユーザガイドのカスタムフィールドの説明に誤りがある | ドキュメント |
| QCCR1B118712 | 2つのプロセスがCPUを100%占有する | PKIユーザ認証 |
| QCCR1B118883 | userID=1のみで実行可能なCLIコマンドが、すべての管理者ユーザが 実行可能になる | CLI |
| QCCR1B119380 | 英語以外のオペレーティングシステムとデータベースに関するサポートを 明確に示す | ドキュメント |
| QCCR1B119909 | タスク後スナップショットの待ち時間が正しく動作しない | スケジューラ |
| QCCR1B120629 | ポリシーの動的スコープマッピングに問題がある | ポリシーマネージャ |
| QCCR1B120718 | 管理者が検索を保存した場合、NAユーザガイドの記載どおりに表示 できない | ドキュメント |
| QCCR1B120743 | Telnetサーバのマルチスレッドにより、SOAP APIが失敗する | スクリプトと診断 |
| QCCR1B120923 | 実稼働前デバイスが検索およびレポートに表示される | ドキュメント |

本リリースで修正された不具合 (続き)

| 不具合 | 説明 | 変更の対象 |
|--------------|---|-----------------|
| QCCR1B121016 | NAが最新の構成であるにもかかわらず、誤ったデバイスデータが表示される | コアアプリケーションサーバ |
| QCCR1B121166 | 変更の検出でホスト名が解析されない | 変更の検出 |
| QCCR1B121169 | ポリシーの検索結果にグループ列が表示されない | 検索 |
| QCCR1B121411 | Syslogの変更検出で、ユーザ名にバックスラッシュが含まれている場合、自動ユーザが生成されてスタックする | 変更の検出 |
| QCCR1B121493 | お気に入りグループを選択すると、現在の作業グループが更新されなくなる | コアアプリケーションサーバ |
| QCCR1B121731 | 変更がなくても、ポリシー変更イベントが登録される | ポリシーマネージャ |
| QCCR1B121838 | トポロジーデータの収集タスクが失敗し、データベースが新しい情報で更新されない | データベース |
| QCCR1B121908 | NA 9.2x管理ガイドで、Enable row movementコマンドで"enable"が欠落している | ドキュメント |
| QCCR1B122004 | [管理対象IPアドレスを編集]ページの保存中にサーバエラーが発生する | NAコンソール |
| QCCR1B122197 | デバイスビューのカスタムフィールドにiframeが正しく反映されない | NAコンソール |
| QCCR1B122428 | デバイスグループでデバイスソフトウェアの更新タスクを実行する際のタイムアウトのパターン | ソフトウェア更新センター |
| QCCR1B122495 | [シリアル番号]フィールドの長さ(100文字)が短すぎる | デバイス管理 |
| QCCR1B122557 | 拡張カスタムフィールドのあるデバイスをインポートすると、NAデータベースにデバイスのコピーが複数作成される | インポート |
| QCCR1B122566 | [ゲートウェイリスト]ページにダウンしているコアゲートウェイについて誤った内容が表示される | MSPゲートウェイ/サテライト |
| QCCR1B122663 | 顧客は、root以外のユーザを使用して、外部アプリケーションタスクでスク립トを実行する必要がある | コアアプリケーションサーバ |
| QCCR1B122873 | NAユーザガイドに記載されているコマンド権限は、ユーザロールで使用できない | ドキュメント |
| QCCR1B122901 | Satellite Monitorが、コアゲートウェイを正しく監視しない | MSPゲートウェイ/サテライト |
| QCCR1B123102 | 承認者が表示中のタスクを編集不能にする | ワークフロー |

本リリースで修正された不具合 (続き)

| 不具合 | 説明 | 変更の対象 |
|--------------|--|---------------|
| QCCR1B123133 | タスクの所有者のみがタスクを編集できる場合、承認者はタスクの詳細を表示できない | ワークフロー |
| QCCR1B123177 | 最後のパスワードルールをリセットできない | パスワード管理 |
| QCCR1B123179 | show memory APIコマンドを、userid=1以外のユーザが実行可能にする | コアアプリケーションサーバ |
| QCCR1B123245 | list port channels APIコマンドは、userid=1以外の管理者による実行を拒否する | ユーザ管理 |
| QCCR1B123276 | disable_context=trueの場合、子/コンテキストデバイスを変更しない | コアアプリケーションサーバ |
| QCCR1B123401 | ソフトウェアイメージ更新タスクテンプレートでのNullポインタ例外 | NASビルドシステム |
| QCCR1B123430 | HPOOフローのタスク更新で問題が発生する | 統合API |
| QCCR1B123588 | 準拠の検索レポートでエラーが発生する | レポート作成 |
| QCCR1B123597 | 検索から生成した動的グループを編集できない | デバイスグループ |
| QCCR1B123633 | NAコンソールのカスタムログインバナーに関する質問 | NAコンソール |
| QCCR1B124075 | 水平スケーラビリティ環境で編集したコアの保存で例外が発生する | NAコンソール |
| QCCR1B124250 | 詳細CSVレポートを表示リンクで問題が発生する | レポート作成 |
| QCCR1B124260 | 診断の実行時に不特定のエラーが発生する: 結果を保存できない | スクリプトと診断 |
| QCCR1B124300 | [デバイス詳細]ページに古いインターフェイス情報が表示される | スナップショット |
| QCCR1B124531 | 詳細レポートに表示されるポリシーエラーデータの内容に一貫性がない | レポート作成 |
| QCCR1B124571 | ポリシー準拠の確認の出力が完了しない | ポリシーマネージャ |
| QCCR1B124776 | ソフトウェア更新タスクでサブタスクにエラーが発生しても、タスクが成功する | スケジューラ |
| QCCR1B124856 | 動的グループの計算に関する詳細情報 | ドキュメント |
| QCCR1B125294 | 水平スケーラビリティ環境で最後に使用されたパスワードのリセットを使用すると、キャッシュが無効になる | パスワード管理 |
| QCCR1B125776 | Juniper SSLVPNデバイスの準拠チェックに有効な内容が出力されない | ポリシーマネージャ |

本リリースで修正された不具合 (続き)

| 不具合 | 説明 | 変更の対象 |
|--------------|-------------------------------|--------|
| QCCR1B125895 | CSVの準拠の検索電子メールレポートの列がUIに一致しない | 検索 |
| QCCR1B126291 | SSHサーバのCBCモード暗号が有効にならない | セキュリティ |

既知の不具合

各不具合の参照番号は、変更要求 (QCCR) 番号です。既知の不具合の詳細は、[HPソフトウェアサポートオンライン](#)にアクセスするか、HPサポート担当者に直接お問い合わせください。

2014年8月：その他の既知の不具合

コンプライアンスセンター: 英語以外の言語でPCIページのテキストが正しく表示されない

英語以外のバージョンをインストールすると、[コンプライアンスセンター - PCI]ページで、英語とローカライズ版の言語のテキストが混在して表示されます。ローカライズされているテキストは古い可能性があります。QCCR1B127993

2014年7月：その他の既知の不具合

Internet Explorerで大きいテーブルのチェックボックスを選択すると応答に時間がかかる

データテーブルが非常に大きい場合、行のチェックボックスをクリックしてからチェックマークが表示されるまでの間に、かなりの遅れが生じることがあります。この遅れは、10,000個のデバイスを含むデバイスグループで、すべてのデバイスを表示するようにテーブルが設定されている場合に観察されています。これが起きるのはInternet Explorerのみです。QCCR1B127421

回避策: 次のいずれかを実行します。

- Internet Explorerで、テーブルに表示するデバイスの数を(たとえば250個程度に)減らします。
- FirefoxでNAコンソールを実行します。

重複するMACアドレスを持つインターフェイスに対して、通信モードの不一致イベントが生成されない

通信モードの不一致イベントに関与しているインターフェイスが、デバイスの別のインターフェイスと同じMACアドレスを持つ場合、NAはデバイスポートの通信モードの不一致イベントを生成しません。また、NAは、統合されているHP Network Node Manager iに不一致を通知しません。QCCR1B127328

回避策: 対象のインターフェイスが一意的MACアドレスを持つようにします。

本リリースの既知の不具合

Internet Explorerでサマリレポートを表示する際、Webページが見つからない

サマリレポートを作成していない場合は、Internet Explorerで[レポート]>[サマリレポート]を選択すると、NAメッセージがマスクされてWebページが見つからないというエラーが表示されます。QCCR1B123937

回避策 : 次の手順のいずれかまたは両方を行います。

- Internet Explorerで[インターネット オプション]ダイアログボックスの[詳細設定]タブの[ブラウズ]の下にある、[HTTP エラー メッセージを簡易表示する]チェックボックスをオフにします。
- サマリレポートの生成タスクを実行してから、[レポート]>[サマリレポート]を選択します。

ExpectスクリプトがWindows Server 2012で動作しない

Windows Server 2012オペレーティングシステムはExpectを完全にサポートしません。NAコアサーバまたはNAクライアントがWindows Server 2012オペレーティングシステムで稼働する場合、Expectスクリプトは正しく実行されません。QCCR1B123387

Internet Explorerでデフォルトのデバイスセクタを使用すると、強調表示できない

デフォルトのデバイスセクタはFlexを使用してAdobe Flashで動作します。キーボードで現在のフォーカスを強調表示する操作は、Internet Explorer 10のFlexでは正しく動作しません。QCCR1B125132

回避策 : NAコンソールでAdobe Flashを動作しないようにします(『NA Administration Guide』の「Disabling the Use of Adobe Flash」を参照してください)。

[デバイスグループ]ページでキーボードを使用できない

NAコンソールの[デバイスグループ]ページの表は、キーボードで操作できます。しかし、[アクション]列のリンクをアクティブにするには、ポインティングデバイスが必要です。QCCR1B118409

Internet Explorerでは、デバイスグループのテーブルヘッダーをスクリーンリーダーで読むことができない

Internet Explorerでスクリーンリーダーをテストすると、NAコンソールの[デバイスグループ]ページのテーブルにあるヘッダーの内容を識別できません。QCCR1B123297

回避策 : スクリーンリーダーを使用する場合はFirefoxを使用してください。

Firefoxを使用するとNAコンソールページの読み込みが遅くなる

Mozilla Firefoxを使用すると、NAコンソールの更新に非常に時間がかかることがあります。QCCR1B114083

解決策: Firefoxをデフォルト設定に戻し、自動更新を次の手順で無効にします。

1. Firefoxで、[Firefox]>[ヘルプ]>[トラブルシューティング情報]をクリックします。
2. [トラブルシューティング情報]ページで、[Firefoxをリセット]をクリックします。
3. [Firefoxをリセット]ダイアログボックスが開いたら、保持される設定の説明を読み、[Firefoxをリセット]をクリックします。

Firefoxのウィンドウが閉じ、設定がリセットされてから、再度開きます。

4. Firefox ESRバージョンを保持するために、ブラウザの自動更新を無効にしてください。
 - a. Firefoxで、[Firefox]>[オプション]をクリックします。
 - b. [オプション]ダイアログボックスで[詳細]ペインを選択し、[更新]タブをクリックします。
 - c. [Firefoxの更新]で[更新の確認は行わうが、インストールするかどうかを選択する]を選択します。
 - d. [OK]をクリックします。

Firefoxの更新を行う場合は、サポート対象バージョン以降の更新を適用しないでください。

イメージ同期レポートにファイルが表示されない

イメージ同期レポートのファイルをソフトウェアイメージリポジトリに保存すると、レポートから同じ名前のファイルがすべて削除されます。レポートには表示されませんが、デバイス上にファイルは残っています。QCCR1B111292

コマンドがカスタムフィールドの制限値を考慮しない

mod resource id custom field dataとmod metadata CLI/API関数は、フィールドで指定されている制限値に対して、データ値を検証しません。したがって、カスタムデータフィールドと拡張カスタムフィールド(カスタムリソースIDフィールドを含む)の値が、期待される値以外に設定される可能性があります。QCCR1B112894

PKIユーザ認証を無効にしても、NAのログインプロセスで証明書が要求される

PKIユーザ認証を正しい方法で無効化すると、証明書を使った認証(PKIユーザ認証)は無効になりますが、NAログインプロセスではブラウザによって証明書が要求されます。QCCR1B114078

回避策: NAコンソールのログインページにアクセスするには、証明書の選択ウィンドウで[キャンセル]をクリックします。NAのユーザ名とパスワードを入力します。

イベントルールで、デバイスソフトウェアの更新タスクを実行できない

デバイスソフトウェアの更新タスクに変更が発生すると、新しいファイルの受信に使用するスロットを指定するために、ターゲットデバイスを指定する必要があります。デバイスソフトウェアの更新タスクを実行するイベント通知と応答ルールを作成または編集するプロセスでは、ターゲットデバイスを指定できません。したがって、イベントルールタスクは保存できません。QCCR1B114887

追加が不要な場合でも、ユーザが[全パーティションを表示]グループに追加される

ユーザが作成したNAユーザグループの中に、パーティションの表示権限が指定されているものがない場合(パーティションの表示権限は[なし]に設定)、NAはこのユーザグループのいずれかに含まれるすべてのユーザを[全パーティションを表示]グループに追加します。ユーザが作成したNAユーザグループに、[パーティションの表示権限]が指定されているものがある場合には、この問題は発生しません。QCCR1B114815

解決策:新規ユーザのログイン情報を指定する前に、新しいNAユーザの権限を確認してください。新規ユーザに[全パーティションを表示]権限を誤って割り当てた場合は、次の手順を実行します。

1. 新規ユーザのユーザグループを編集し、[パーティションの表示権限]セクションで正しいパーティションを選択します。
2. [全パーティションを表示]ユーザグループを編集し、[グループのユーザ]リストからユーザを削除します。

[システム管理設定]の最後の項目の削除が、NAコアに複製されない

分散環境では、[システム管理設定]ページのリストにある最後の項目の削除が、他のNAコアに正しく複製されません。QCCR1B115004

回避策:他のNAコアで、[管理]>[分散]>[構成オプションを更新]コマンドを実行します。

NA FTPサービスをNAコンソールで制御できない(Linuxのみ)

NA FTPサービスは、NAコンソールの[サービスの開始/停止]ページにある[開始]、[停止]、[再開]の各ボタンに反応しません。QCCR1B107775

解決策:このボタンを有効にするには、次の手順でFTPサービス設定を更新します。

1. 次のディレクトリに移動します。

```
<NA_HOME>/server/ext/wrapper/conf
```

2. 次のファイルを<NA_HOME>以外の場所にバックアップします。

```
ftp_wrapper.conf
```

3. テキストエディタ(viなど)でftp_wrapper.confファイルを開きます。

4. pidという文字列を検索し、次の行を探します。

```
wrapper.pidfile=/var/run/Ftp.pid
```

5. 見つかった行のサービス名を、小文字から大文字に変更します。

```
wrapper.pidfile=/var/run/FTP.pid
```

6. NAサービスを再開します。

```
/etc/init.d/truecontrol restart
```

Webブラウザウィンドウを複数開くと予期しない動作が発生する

同じシステム上で複数のWebブラウザウィンドウを使って1人のユーザがNAにログインすると、予期しない動作が発生することがあります。これは、一部のNAコンポーネントがユーザベースであることが原因で発生します。複数のWebブラウザウィンドウから1人のユーザがNAを実行する環境はサポートされていません。QCCR1B102985

ログインプロンプトの待機中、Perl SSHがタイムアウトする

NA Perl APIを使用してSSHでNA Proxy CLIに接続しようとする、接続の呼び出し中にタイムアウトエラーが誤って通知されます。このエラーは、サードパーティのNet::SSH::Expect libraryの不具合が原因で発生します。QCCR1B107878

解決策: ループに接続呼び出しをラップし、何回か再試行してから接続失敗を通知します。次に例を示します。

```
#Connect to the device
#
# due to issue with Net::SSH::Expect there may be random connect issues
#
my $retry=3;
while($retry) {
    if ($con->connect($myip)) {
        $retry= '0';
    }else{
        sleep 1;
        $retry--;
        unless ($retry) {
            print "Failed to connect to $myip\n";
            exit_connect();
            return (0);
        }
    }
}
```

メモリ書き込みコマンドがセッションログに記録されない

デバイスのタスクページで[強制的に保存]と[セッションログ]のオプションを両方選択すると、実行中の構成をスタートアップ構成に保存するのに使用したコマンドがタスクのセッションログに記録されます。たとえば、Ciscoデバイスの場

合、"write memory"というコマンドがデバイスに送信されたことを示すログがセッションログに記録されます。一部のタスクでは、構成コマンドの保存がセッションログに記録されないことがあります(診断の実行タスクなど)。コマンドはデバイスに送信されますが、ログには記録されません。QCCR1B102502

回避策: コマンドが送信されていることを確認し、jboss_wrapperログをチェックします。

HP NNMi-HP NAの統合 : 一部のNAインターフェイス構成が、NNMiで使用できない

NAインターフェイス構成には、NAコンソールで使用できてもNNMiコンソールで使用できないものがあります。NNMiインターフェイスとNAポートのマッピングについては、『HP Network Node Manager i Software—HP Network Automation Integration Guide』を参照してください。QCCR1B102518

ハイフンが含まれていると、全文検索で正しい結果が返されない

全文検索にハイフン(-)を指定すると、余分なテキストが結果として返されることがあります。QCCR1B102520

大文字と小文字を区別する検索を有効にするとエラーが発生する(Oracle)

`mod oraclecaseinsensitive -option enable`コマンドを実行すると、「GEN_FAILURE: Failed to modify database (データベースの変更に失敗しました)」というメッセージが返されることがあります。この場合、大文字と小文字の区別は有効になっていません。QCCR1B102927

回避策: 数分待ってから、`mod oraclecaseinsensitive -option enable`コマンドを再度実行します。

Autopassライセンスがレガシーライセンスを上書きする

HP Autopassライセンスキーを使用すると、NAでレガシーのライセンスキーが使用できなくなります。この問題が影響を及ぼすのは、NA 9.20にアップグレードするユーザです。これには、2つのケースがあります。

- インストール中にインスタントオンライセンスをアクティブ化し、NA 9.20を新規インストールする場合。この場合、インスタントオンライセンスの有効期限まで、製品を使用できます。インスタントオンライセンスの有効期限が切れると、NAはレガシーライセンスを識別せず、NAを使用できなくなります。
- 旧バージョンのNAから所定の場所にアップグレードされたが、レガシーなライセンスを使い続けているNA 9.20システムに対して、追加するキャパシティ分のAutopassライセンスを適用する場合。この場合、NAは新しく追加したキャパシティのみを認識します。

QCCR1B95407

回避策: いずれの場合も、次の手順でAutopassライセンスキーを削除します。

1. Autopassライセンスファイルを探します。
 - Windows : <NA_HOME>\autopass\license\lickeys.dat
 - Linux : <NA_HOME>/autopass/license/lickeys.dat
2. テキストエディタで、lickeys.datファイルの内容を削除し、空のファイルを保存します。
3. 適切なレガシーNAライセンス(license.datファイル)がNAルートディレクトリに存在することを確認します。

4. 追加キャパシティのAutopassライセンスが原因でこの問題が発生している場合は、HPのセールス担当者に連絡し、追加キャパシティ用のレガシー形式のライセンスキーを取得して適用してください。
5. NA管理エンジンを再起動します。

NAはlicense.datファイルのレガシーライセンスを使用します。

SNMPv3構成に誤りがあると、デバイスを正しく検出できない

デバイスのNA構成にSNMPv3設定が含まれていると、NAはデバイスとの通信にまずSNMPv3を使用します。次に、SNMPv1またはSNMPv2cの設定を使用します。SNMPv3設定に誤りがあると、NAはSNMPv3接続が失敗したと認識せず、デバイスを非アクティブノードまたは認識されないホストとして検出します。したがって、NAはSNMPv1またはSNMPv2cを使用してデバイスとの通信を試行しません。QCCR1B86730

回避策: SNMPv3設定を修正するか、SNMPv3構成を削除してSNMPv1またはSNMPv2を使用します。

SNMPv3でのプライバシー機能とAES192およびAES256暗号化の使用

ネットワークデバイスの検出やドライバの検出などのタスクでは、SNMPv3でAES192またはAES256暗号化のプライバシープロトコルを正しく使用できません。QCCR1D88942

回避策: AES128など、別の暗号化方法を使用してください。

SNMPタイムアウト値がSNMPv3通信で短すぎる

SNMPv3デバイスとの通信でタイムアウトが頻繁に発生する場合、[システム管理設定]ページの[デバイスアクセス]タブにある[SNMPタイムアウト]設定の値を大きくしてください。QCCR1B87867

TelnetおよびSSHセッション(IPv6デバイス)

NAは、TelnetまたはSSHセッションをIPv6デバイスにキャッチアップしません。したがって、履歴はデバイス情報ページに反映されません。QCCR1B87641

代替ドライバ検出(IPv6デバイス)

代替ドライバ検出で、IPv6アドレスの最初のコロンの(:)がデバイスのポートとして正しく認識されません。QCCR1B87801

すべてのパーティションに対する権限がないと、デバイス構成を比較できない場合がある

すべてではなく一部のパーティションのみにアクセスできるユーザには、[デバイス]ページの[構成変更]タブでデバイスを比較するオプションが表示されません。QCCR1D94263

カスタム診断

NAを使用すると、カスタム診断を定義し、使用環境に有用な特定の情報をキャプチャできます。カスタム診断の名前に80文字以上を指定すると、[デバイス診断]ページに最新の診断の内容が表示されますが、レンダリングエラーが原因でページの下に診断履歴テーブルが表示されません。QCCR1B86671

[ポリシー]ページ

管理者権限を持つユーザは、[ポリシー]ページですべてのポリシーを表示でき、ポリシーを複数のポリシータグに分類することができます。ただし、フルアクセス権限がないと、サイトパーティションが複数存在する場合、ポリシータグに基づいたフィルタリングを実行できません。QCCR1D86308

NA-NNMi統合 (IPv6デバイス)

NA-NNMi統合では、IPv6デバイスの同期はサポートされません。サポートされるのはIPv4デバイスのみです。QCCR1B86228

mod authenticationコマンドの実行

mod authenticationコマンドを実行すると、変更対象となるデバイス固有の認証レコードがない場合、システムで次のようなエラーが発生します。GEN_FAILURE:The Device Password Information for Device you requested can not be found.It may have been deleted.QCCR1D116666

回避策: add authenticationコマンドを使用して新しいエントリを作成します。

ネットワークダイアグラム

ネットワークダイアグラムは、Visio、静的JPEG、または対話的JPEGの形式で表示することができます。NA 9.1をWindows Server 2008にインストールすると、JPEG形式のネットワークダイアグラムにはアイコンが表示されません。QCCR1D113667

メモリ割り当てエラー

NAをLinuxプラットフォームにインストールしている場合、ログメッセージまたはNAタスクが失敗した場合の結果に次のエラーが表示されることがあります。

```
Caused by:java.io.IOException:error=12, Cannot allocate memory
```

このエラーが発生するのは、JVM(Javaプロセス)が外部シェルスクリプト(カスタムアクションまたはメモリの監視)を実行しようとする場合です。外部シェルスクリプトを実行するには、プロセスの分岐が必要です。分岐では、親プロセスが子プロセス用に自身のコピーを作成する必要があります。親プロセスのコピーを作成する際、システムカーネルに対して、割り当て可能な容量以上のメモリが要求されることがあります。(64ビットと32ビットサーバのいずれかで発生します)。QCCR1D114717

回避策: rootとして、rootシェルプロンプトで次のコマンドを実行します。

```
echo 1> /proc/sys/vm/overcommit_memory
```

NAのアンインストール

現在のNAが64ビットであり、32ビットNAからアップグレードした場合、NAアンインストーラは動作しません。QCCR1B103211

回避策 : 32ビットNAプラットフォームを64ビットNAプラットフォームにアップグレードする場合は、NAのインストールディレクトリをチェックしてください。jre_oldという名前のディレクトリがある場合、次の手順を実行してから、NAをアンインストールします。

1. NAサービスを停止します(TFTP、Syslog、SWIM、FTPなど)。
2. <NA_HOME>/jreの名前を変更します。
3. <NA_HOME>/jre_oldを、<NA_HOME>/jreに変更します。
4. NAアンインストーラを実行します。

FTPサービス(起動)

Linuxプラットフォームで、CLIを使ってNAを再開すると、FTPサービスは開始しません。NAが起動してから、NA Web UIからFTPサービスを開始する必要があります。QCCRID114411

FTP構成の変更後、変更内容を反映するためにはFTPサービスの再起動が必要になる場合があります。この場合、操作にはNA Web UIを使用してください。

FTPアカウント

NAUserManagerクラスは、構成オプションを使用してFTPアカウントのユーザ名とパスワードを識別します。現時点では、FTPアカウントは1つのみです。NA管理者がNAで構成値を変更すると、FTPサーバは再起動まで変更内容を識別できません。これは、ユーザチェックを行わない限り、構成オプションを再ロードしないためです。QCCR1D112098

回避策 : FTPサーバはNAの外部で別プロセスとして稼働するので、.rcxファイルが変更されても通知されません。FTPアカウントのユーザ名またはパスワードを変更した場合は、FTPサーバを再起動してください。

要塞ホストを使用してCLIドライバ検出を行う場合、一部のデバイスが検出されない

SSH接続で要塞ホストサーバを使用する設定をデバイスで行う場合、ドライバの検出タスクが失敗し、次のエラーメッセージが表示されます。このタスクは完了しませんでした。

さらに、セッションログには失敗したタスクの情報が記録されません。QCCR1D105486

回避策 : 要塞ホストを使用しないでドライバを検出するか、ドライバを手動で割り当てます。

Oracleデータベースのログファイル

Oracleデータベースでは、クエリの失敗に関連するエラーがログファイルに記録されることがあります。

```
java.sql.SQLException:ORA-00600:internal error code, arguments:[kglhdgn_1],  
[0xA000000], [0], [2], [], [], [], []
```

これはOracleの内部エラーで、通常はDBAとOracleサポートによって解決されます。このエラーでは次のメッセージが表示されます。

```
ORA-00600 internal error code, arguments:[string], [string], [string],  
[string], [string], [string], [string], [string]
```

これは、Oracleプログラムの例外に割り当てられる汎用の内部エラー番号です。プロセスで、低レベルの予期しない条件が発生したことを示します。このメッセージの原因として、次のケースが考えられます。

- タイムアウト
- ファイルの破損
- メモリ内のデータチェックの失敗
- ハードウェア、メモリ、I/Oのエラー
- 復元ファイルの誤り

最初の引数は、内部メッセージ番号を示しています。それ以外の引数は、数値、名前、文字列です。数値は、Oracleのバージョンによって異なることがあります。QCCR1D1114453

回避策 : エラーをDBAまたはOracleサポートサービスに報告してください。

VLAN検索

VLAN検索をNA 7.50以前のバージョンに保存すると、NA 7.60で追加されたVLAN機能が原因で、NA 9.20では使用できなくなります。保存したVLAN検索を表示しようとすると、次のエラーメッセージが表示されることがあります。

```
Error executing query VLAN:PortInVlanName is not a valid field name for this  
query.
```

回避策 : VLAN検索を削除してから、作成しなおしてください。QCCR1D102754

サイズの大きなイメージフィルのアップロード

現在、NAでアップロード可能なのは1GB以下のデバイス構成に限定されます。QCCR1D99027

デバイスのプロビジョニングタスク

デバイスのプロビジョニングタスクでは複数のデバイスを選択できますが、タスクの実行対象は1つのみです(複数のデバイスに.csvファイルを使用)。デバイスまたはデバイスグループを複数選択しようとすると、デバイスセクタでエラーが発生します。QCCR1D102620

タスクのキャンセル

現在デバイスと通信しているタスクをキャンセルすると、NAはそれ以降のタスク実行(または類似タスク)を「スキップ」とマークすることがあります。この現象は、タスクとデバイスの通信がハングし、タイムアウトの待機中にも発生します。

この問題は、実際にタスクをキャンセルする前にNAがタスクとデバイスの通信を終了しようとしている場合に発生します。結果として、NAは通信の終了までタスクを実行し続けることとなります。キャンセルの前にタスクを再試行すると、NAはタスクは実行中だと認識します。結果として、新規タスクは「スキップ」とマークされます。タスクがキャンセルされるまで、十分な時間を確保する必要があります。タスクがキャンセルされると、NAによるタスクの再実行が可能になります。QCCR1D101509

コマンドスクリプトでの\$tc_device_enable_password\$変数の使用

\$tc_device_enable_password\$変数をコマンドスクリプトで使用する場合、デバイスのイネーブルパスワードに@記号が含まれていると、@記号はバックスラッシュ(\)に置換されます。QCCR1D100314

[デバイス管理対象IPアドレス]ページ

[デバイス管理対象IPアドレス]ページで変更を行う場合、NAは接続パスを保存しようとするので、変更内容は有効になりません。QCCR1D101755

回避策: [デバイス管理対象IPアドレス]ページで、[最後に使用されたIPのリセット]リンクをクリックします。

親タスク優先度の設定

現在実行中の親タスクの優先度を変更すると、「保留中」または「待機中」状態にある既存の子タスクは、親タスクの優先度に適切に変更されます。ただし、まだ作成されていない子タスクや、「実行中」または「一時停止」などの別の状態にある子タスクは、親タスクに元々設定されている優先度のままになります。親タスクが実行中でなく、その優先度を変更すると、親タスクが持つすべての子タスクには新しい優先度が設定されます。QCCR1D98393

OpenLDAPユーザ認証のテスト

NAでOpenLDAPユーザ認証を使用する構成を行う場合、構成を保存してから、テスト機能で設定をチェックしてください。QCCR1D99664

LDAPサーバの使用

LDAPサーバで外部ユーザ認証を行う場合、appserver.rcxファイルでLDAP関連オプションの変更が必要になることがあります。Active Directoryサーバでは、ほとんどの場合、デフォルト設定で問題ありません。ただし他のタイプのLDAPサーバ(LDAPスキーマ構成によって異なる)では、デフォルト設定で問題がある場合には次の設定のカスタマイズが必要になることがあります。QCCR1D99663

```
<!-- Attribute mapping for Generic LDAP server-->
<option name="ldap_server/attr_mapping/Generic/group_
search">group,organizationalunit, container,groupOfUniqueNames</option>
<option name="ldap_server/attr_mapping/Generic/group_
name">name,cn,commonName</option>
<option name="ldap_server/attr_mapping/Generic/member_
search">member,uniqueMember </option>
<option name="ldap_server/attr_mapping/Generic/username_
search">samAccountName,uid,cn </option>
```

注意: 以下の設定は無視してください。ここでは使用されません。

```
<!-- Attribute mapping for SunLDAP server-->
<!-- Attribute mapping for OpenLDAP server-->
```

「group_search」オプションは、LDAPグループを検索する際のLDAPエントリリストを示します。この情報はLDAP設定ウィザードのステップ3で使用され、NAへのログインを許可するメンバーを含むLDAPグループが定義されます。組織

のLDAP管理者に問い合わせ、必要なグループ属性がすべてリストに含まれていることを確認してください。たとえば、LDAPグループ検索用に、groupOfNameをリストに含めます。

同様に、「username_search」と「member_search」の設定も行います。この2つは、NAログインプロセスで使用され、これを元にユーザの識別とユーザグループのメンバーシップの特定を行います。デフォルトのLDAP属性名がLDAPスキーマ構成と一致しない場合は、一致するように変更してください。

「group_name」オプションでは属性名を指定しますが、一般的にここではグループ名が指定されています。LDAPグループの属性名が「name」、「cn」、「commonName」でない場合、それぞれ変更が必要になります。ただし、このオプションの変更が必要になることはほとんどありません。

変更が完了したらappserver.rcxファイルを保存してNAサーバを再起動します。

デバイス関係

vSwitchに対するスクリプト実行は、ESXサーバへの直接APIコールで行われます。その結果、vSwitchに関連しないESXサーバ設定がスクリプトによって変更されてしまいます。この問題は、MSP権限がvSwitchのみに割り当てられ、ESXサーバには割り当てられていない場合でも発生します。QCCR1D100298

ポリシーでのURLの指定

ベンダーソリューションURLやベンダー諮問URLを含めてポリシーを作成する場合、URLの先頭には「http://」を付ける必要があります。そうしないと、リンクがブラウザによって正しく解釈されないことがあります。[URL]フィールドを空白にすると、リンクを選択したときに、NAホームページが開くことがあります。QCCR1D98621

ポート/インターフェイスに関するVLAN情報の表示

デバイスのMACアドレスの詳細を[MACアドレスの詳細]ページで表示すると、VLANフィールドには何も表示されません。QCCR1D98139

回避策：ポート/インターフェイスのVLAN情報を表示するには、[MACアドレスの詳細]ページでポートのポート名リンクをクリックします。[インターフェイスの詳細]ページが開きます。[メンバーVLAN]フィールドを下にスクロールすると、VLAN情報が表示されます。

Active Directoryの使用

Active Directoryを使用する場合、appserver.rcxファイルでオプションを変更し、検索マッピングセッションの属性を正しく指定してください。QCCR199633

1. appserver.rcxファイルで<!-- Attribute mapping for Generic LDAP server-->セクションを探します。
2. 以下を確認してください。
 - 「groupOfName」が「group_search」に含まれている。
 - 「uid」が「username_search」に含まれている。
 - 「member」が「member_search」に含まれている。

3. appserver.rcxファイルを変更して保存します。
4. NAサーバを再起動します。

デバイスグループセレクトタの使用

デバイスグループセレクトタの使用時に、中国語の一部の文字が表示されません。QCCR1D98865

高度なPerlスクリプトの作成

高度なPerlスクリプトを作成する際には、NAが\$some_text\$を予約済み変数として処理する点に注意してください。スクリプトで、\$のペアを変数以外として使用する場合は、空白文字で区切る必要があります。QCCR1D101541

次に例を示します。

間違った指定:`my($host,$port,$user,$pass) = ('localhost','$tc_proxy_telnet_port$', '$tc_user_username$', '$tc_user_password$');`

正しい指定:`my($host, $port, $user, $pass) = ('localhost', '$tc_proxy_telnet_port$', '$tc_user_username$', '$tc_user_password$');`

名前に一重引用符がある診断の結果を表示するとエラーが発生する

名前に一重引用符を含む診断(「Ana's Diagnostic」など)を作成する場合、デバイスで診断を実行した後、診断結果が表示されません。QCCR1D95468

回避策: 診断名には一重引用符を指定しないでください。

診断名に関する制限事項

診断の名前は、100文字以下で指定します。ただし、診断の実行時には50文字までしか指定できません。QCCR1D96090

回避策: 診断の名前を50文字以下にします。

リモート領域のデバイスでのSCPの使用

リモート領域のデバイスはSecure Copy(SCP)転送プロトコルを使用できません。これは、リモートゲートウェイサテライトエージェントがSSH/SCPのポート22を使用できないためです。このポートは、ゲートウェイOSが使用しています。QCCR1D87003

回避策: リモート領域のデバイスではSCPを無効にします。

LinuxでのSCPの使用

Secure Copy(SCP)転送プロトコルでは、ローカルホストとリモートホスト、または2つのリモートホスト間をSecure Shell(SSH)プロトコルを使用してファイルを安全に転送します。Linuxプラットフォーム上でSCPを使用する場合、システム

のSSHデーモン(SSH)を変更して別のポートで動作するようにし、SSHサービスを再起動する必要があります。ポート8022を推奨します。

システムのSSHを再設定すると、NAを再起動してポート22にバインドすることが可能になります。変更後、システム管理者は`ssh -p 8022 username@host`を実行して、システムのSSH経由でログインする必要があります。

注意: NAプロキシへの直接接続には、`ssh username@host`を使用します。

NAへのログイン時、[デバイスアクセス]ページ([管理]>[システム管理設定]>[デバイスアクセス])にアクセスします。[SSHのデバイスアクセス]フィールドまでスクロールします。SSHユーザ名とSSHパスワードを入力します。デバイスドライバは、NAサーバへのファイルコピーでこの情報を使用します。

注意: SCPとSSHが正しく機能するようにデバイス固有の設定を構成する必要があります。さらに、デバイスとデバイスドライバが、SCP用にNA SSHサーバを使用するためにSCPをサポートする必要があります。

リモート領域でSCPを使用するには、SCP接続を、管理対象NAサーバに戻す必要があります。NAゲートウェイはLinuxシステムSSHを実行するので、NAゲートウェイへのSCP接続は成功しません。NAゲートウェイは、管理対象のNAコアではなくNAゲートウェイにホストを設定します。この設定は、アクセス変数(TFTPServer)を管理対象のNAコアのIPアドレスに設定することによって上書きできます。詳細については、『NA Satellite Guide』を参照してください。QCCR1D82379

SCPの使用

SSHプロトコルはポート22で動作します。Secure Copy(SCP)は、SSHプロトコルを使用するデータ転送機能です。デフォルトでは、Linuxはポート8022で動作します。Windowsはポート22で動作します。Windows環境でポートを8022に切り替えている場合、接続で問題が発生することがあります(ほとんどのデバイスでは代替ポートを指定できないので、この問題はあまり発生しません)。

注意: デバイスがリモート領域にあり、デバイスへのアクセスがNAサテライトで管理されている場合、SCPは使用できません。NA SSHプロキシはポート22で動作します。任意のプラットフォームのポート8022を使用すると、デバイスからNAへのSCPコピーは動作しません。NA Satellitesの詳細については、『NA Satellite Guide』を参照してください。QCCR1D80180

プロキシインターフェイス

権限に制限のあるユーザでNAにログインし、プロキシインターフェイス経由でデバイスに接続すると、ユーザ名/パスワードのプロンプトで切断されます。QCCR1D86391

SNMPタイムアウト

遅延が発生するネットワークでSNMPデバイス検出を実行するとSNMPタイムアウトが発生します。QCCR1D75228

解決策:

1. NAにログオンします。
2. [管理]メニューバーから[システム管理設定]を選択し、[デバイスアクセス]をクリックします。[システム管理設定-デバイスアクセス]ページが開きます。
3. 下にスクロールして[ネットワークデバイスの検出、およびポートスキャンタスクの設定]セクションまで移動し、SNMPタイムアウトを最大値(2500ミリ秒など)に設定します。

-syncオプション

ワークフローを有効にしてCLIまたはAPIタスクを-syncオプションで実行しようとする、「ディレクトリが存在しない」というエラーが発生します。QCCR1D79600

データベースパスワード

NAユーザは、ドル記号を複数(\$\$)指定できません。データベースへの接続に使用したパスワードにドル記号が複数含まれている場合は、パスワードを変更してからNAのインストールを行ってください。QCCR1D61595

インストールアドレス

IPv4アドレスの範囲 169.254.0.0/16はリンクローカル(APIPA: Automatic Private Internet Protocol Addressing、Microsoftの用語)用に予約済みであり、NAなどのネットワークアプリケーションサーバのアドレス設定方法ではありません。詳細については、<http://www.ietf.org/rfc/rfc3330>および[rfc3927](http://www.ietf.org/rfc/rfc3927)を参照してください。QCCR1D78975

SSH通信

NA 7.50では、SSH通信向けに新しいキーのセットがいくつか追加されています。NA 7.50より古いリリースでは、NAはすべてのインストールに単一のデジタル署名アルゴリズム(DSA)キーを使用していました。NA 7.50またはNA 7.60へのアップグレード時に、NAは新たに1024ビットキーを2つ作成します。最初のキーはDSAアルゴリズムを使用します。もう1つのキーはRSAアルゴリズムを使用します。この2つのキーは、SSH経由でのNA接続で使用されません。QCCR1D78861

カスタムデータの設定

カスタムデータフィールドでは、特定のデバイス、設定、ユーザなどに有効なデータを割り当てることができます。これにより、柔軟性が向上し、NAと他のアプリケーションの統合が実現します。

カスタムデータを追加するには、[管理]メニューバーにある[カスタムデータの設定]をクリックします。[カスタムデータの設定]ページが開きます。カスタムデータフィールドには、英数字とアンダースコアを入力できます。ダッシュは使用可能ですが、カスタムスクリプトのtc_device_customデバイス変数では、ダッシュを含むカスタムデータフィールド名を指定することはできません。QCCR1D77153

高度なACLスクリプト

高度なACLスクリプトの指定で[スクリプトを更新]ボタンを選択すると、値がロックされることがあります。その結果、スクリプトを実行(または再実行)すると、変数は正しく更新されなくなります。QCCR1D74295

回避策: 高度なACLスクリプトでは、[スクリプトを更新]ボタンを使用しないでください。

スクリプトでのドル記号(\$)の使用

Telnet/SSHセッションログからスクリプトを生成する場合、セッションの実行コマンドにドル記号(\$)が含まれていると、スクリプトが失敗または予期しない動作をします。QCCR1D69342

OS分析タスク

IPアドレスが重複した環境でNAを使用すると、リモート領域ゲートウェイの背後にあるデバイスで、OS分析タスクがサポートされません。OS分析タスクは、ローカルにアクセス可能なネットワーク上にあるデバイスで実行されます。その結果、ゲートウェイの背後にあるデバイスについては、イメージ推奨に誤りが発生することがあります。IPアドレスが共有されている場合、NAが報告する推奨OSは、リモート領域ではなくデフォルトの領域にあるデバイスが対象になります。QCCR1D67566

電子メールレポートタスク

電子メールレポートタスクのスケジュール設定で、[実行するレポート]フィールドでサマリレポート以外のレポートを選択すると、タスクは失敗と報告されます。ただし、レポートは電子メールで正常に送信されます。このエラーメッセージは無視しても問題ありません。QCCR1D69342

テンプレートスクリプト

テンプレートスクリプト(ハンドルによるACL行の一括挿入など)を使用する場合、再実行オプションを選択すると、同じスクリプトが再実行されます。フィールドを変更しようとしても、実行スクリプトを変更できません。QCCR1D70552

NAコアゲートウェイ

1つのNAコアと同じNA領域では、NAコアゲートウェイを重複して構成することはできません。QCCR1D68751

回避策 : adjustable_options.rcxファイルを編集し、もう1つのNAコアゲートウェイのIPアドレスを追加します。

```
<array name="rpc/allowed_ips">  
<value>10.255.54.10</value>  
</array>
```

Oracleデータベースエラーによってタスクの失敗などの問題が発生する

JDBC Oracleドライバのバグが原因で、Oracleデータベースエラーによってタスクの失敗などの問題が発生します。ドライバが原因でデータベースエラーが発生し、その結果、タスクの失敗などの問題が発生します。エラーメッセージでは、OALL8が整合性のない状態であることが報告されます。QCCR1D69094

回避策 : Oracleデータベースサーバのバージョンを更新することをお勧めします。

NAで予約されている文字をデバイスプロンプトで使うことが原因で発生するタスクの失敗

NAでは、次の11個の文字が特殊文字として予約されています。

- 開始角かっこ ([)
- 開始または閉じかっこ (())
- バックスラッシュ (\)
- キャレット (^)
- ドル記号 (\$)
- ピリオドまたはドット (.)

- バーティカルバーまたはパイプ(|)
- 疑問符(?)
- アスタリスクまたは星 マーク(*)
- プラス記号(+)

デバイスプロンプトで上記のいずれかの文字を使用すると、タスクの実行中にNullポインタ例外エラーが発生する可能性があります。それにより、タスクは失敗します。QCCR1D70102

回避策: NAの使用、デバイス名には上記の文字を使用しないでください。

大文字と小文字が異なるが同じ名前のACLの使用

NAは、ACL名で大文字と小文字を区別します。その結果、大文字と小文字が異なるが同じ名前のACLを2つ作成することが可能です。いずれかのACLを削除すると、大文字と小文字の区別は関係なく、同じ名前のACLがすべて削除されます。大文字と小文字が異なるが同じ名前のACLの使用はお勧めしません。QCCR1D61744

Perlコードでのドル記号(\$)の使用

Telnet/SSHプロキシセッションにドル記号(\$)が含まれていて、これをPerlに変換する場合(バナーに\$を追加するスクリプトなど)、生成されるPerlコードではドル記号(\$)が正しくエスケープされません。QCCR1D61867

回避策: スクリプトを編集し、ドル記号(\$)の前にバックスラッシュ(\)を挿入してください。

親デバイスグループまたはデバイスグループの一括編集

親グループデバイスまたはグループデバイスのデバイス、あるいはデバイスのないパーティションを一括編集すると、無効なエラーメッセージが表示されます。選択したデバイスに対するデバイスの修正権限がありません。QCCR1D61742

回避策: 親デバイスグループに含まれるすべてのデバイスを一括編集するには、親デバイスグループ内の各子グループに対して一括編集を行います。

Cisco.comからソフトウェアイメージをダウンロード

Cisco.comからは、現在NAシステムにないデバイスのソフトウェアイメージをダウンロードできます。ただし、ソフトウェアイメージを配布するには、ドライバモデル情報の変更が必要になることがあります。QCCR1D66891

回避策:

1. [デバイス]メニューで[デバイスツール]を選択して、[ソフトウェアイメージ]をクリックします。[ソフトウェアイメージ]ページが開きます。
2. [アクション]列で、ソフトウェアイメージの[編集]をクリックします。[ソフトウェアイメージの編集]ページが開きます。
3. [イメージセットの要件]フィールドで、NAのデバイスと互換性のあるドライバモデル情報を変更します。
4. [ソフトウェアを保存]ボタンをクリックします。

マルチマスタ分散システムデバイスのインポート

同じIPアドレスを持つ2つのデバイスを2つの異なるNAコアにほぼ同時にインポートする場合、現在のところ、重複デバイスを検出できません。QCCR1D59742

回避策: インポートの後、重複の削除タスクを手動で実行します。1つのデバイスが自動的に重複解除され、「非アクティブ」になります(重複の削除タスクの実行の詳細については、NAヘルプを参照してください)。

SQL Serverでのマルチマスタ分散システム

reason_textフィールドが制限名を参照していないエントリが競合している場合、NAは競合を自動的に解消します。この場合、競合するエントリを削除します。NAで競合が解消されない場合は、修正を行ってから競合エントリを削除してください。次に、制限名を参照しない競合について、reason_textフィールドの例を示します。

```
reason_text    A row insert at 'red-dalmssql1102.ds2880db2' could not be
propagated to 'RED-DALMSSQL101.ds2880db1'.This failure can be caused by a
constraint violation.The merge process was unable to synchronize the row.
```

ネットワークデバイスの検出タスク

NAシステムでは、ネットワークデバイスの検出タスクを複数並列実行できません。ネットワークデバイスの検出タスクによって生成されるトラフィックは非常に小さいのですが、ネットワークデバイスの検出タスクを重複または追加実行した場合の追加トラフィックを最小限に抑えることを目的にしています。

ネットワークデバイスの検出タスクの実行中に、2つ目または3つ目のネットワークデバイスの検出タスクを追加実行しようとする、NAによって追加タスクは「待機中」になります。このタスクは、ネットワークデバイスの検出タスクが完了しないと開始できません。

ダイアグラム

NAは、Visioダイアグラムで表示するインターフェイスとポートラベルの「テキストの高さ」属性に絶対値を使用します。Visio VDXファイルの読み込み時、Visioは「テキストの高さ」属性に誤った式を割り当ててしまいます。その結果、インターフェイスまたはポートの注釈テキスト(ラベル)が複数行にまたがる場合、これをコピーして貼り付けようとすると、貼り付け先のラベルは正しく表示されず、インターフェイスやポートのアイコンが隠れてしまいます。

回避策: Visioツールバーの[テキスト ツール]オプションをクリックし、インターフェイスやポートのアイコンが見えるようにラベルを移動します。

マルチマスタ分散システムのパフォーマンス

分散システムを実行する場合、オブジェクトを多数同時に削除すると、削除操作の実行に時間がかかることがあります。

マルチマスタ分散システムの外部認証

マルチマスタ分散システムで外部認証を使用する場合、外部認証の種類(TACACS+やActive Directoryなど)はグローバルです(すべてのNAコアが共有)。一部の認証サーバ情報はNAコア固有です。QCCR1D53815

回避策: [ユーザ認証] ページで、[システム管理設定 - 外部認証の種類] を「なし」に設定します。認証サーバ情報またはActive Directory設定に基づいて、NAコアを個々に構成します。すべてのNAコアの構成が完了したら、任意のNAコアの外部認証の種類を設定します。ここで指定した外部認証の種類の設定は、すべてのNAコアに複製されます。

RADIUS外部認証

RADIUSを使用したユーザ認証をセットアップする場合、RADIUSサーバが応答しないと、外部認証にフェイルオーバーしている場合でも、NAはNAローカルパスワードで認証しようとします。QCCR1D9099

タスク: 外部アプリケーションの実行タスクを実行するとセキュリティリスクが発生する

外部アプリケーションの実行タスクは、すべてのroot(Linux)またはsystem(Windows)の権限で実行されます。外部アプリケーションの実行機能を使用する前に、このセキュリティリスクについてシステム管理者は確認しておいてください。QCCR1D14089

スクリプト: HTML形式での出力

高度なスクリプトまたは外部アプリケーションの実行タスクを実行すると、高度なスクリプトまたは外部アプリケーションが生成して「stdout」に書き込まれたテキストはNAにタスク結果として保存されます。一般的に、この出力はプレーンテキストとして処理および表示されます。したがって、NAはタスク結果を表示する際、HTML形式での表示に影響を与える文字をエスケープします。たとえば、<は<に変換されます。

ただし、高度なスクリプトの出力をHTML形式で行う場合もあります。このような場合は、出力された文字はエスケープされないため、HTML形式で正しく結果が表示されます。スクリプトが出力する結果がHTML形式であることをNAに指示するには、「stdout」に最初に<html>と書き込みます。スクリプト出力の先頭が<html>以外の場合、結果はプレーンテキストとして処理されます。QCCR1D21216

Nmapスキャン

スキャンをするネットワーク範囲を指定するときには十分な考慮が必要です。ネットワークポロジによっては、非常に長時間のスキャンになる場合があります。また、インターネットアドレスはスキャンしないことをお勧めします。Nmapスキャンが数分以上かかる場合、複数のNmapオプション(--max_scan_delay <milliseconds>)などを使用して、<milliseconds>を1~1000の値に設定します。パケットのドロップ時、Nmapのスロットルは最長1000ミリ秒になります。

Nmap設定は、メニューバーの[管理]にある[システム管理設定]オプションで、[デバイスアクセス]オプションを選択しても変更できます。Nmapの詳細情報は、www.insecure.orgのドキュメントを参照してください。QCCR1D19036

SecurIDソフトウェアトークンバージョン3.x

NAサーバを3.x SecurIDトークンソフトウェアでインストールする場合、RSAサーバのSecurIDソフトウェアトークンキーをエクスポートする際、コピー保護をオフにしてください。オフにしないと、SecurIDソフトウェアトークンへのアクセス時にNAはエラーを報告します。SecurIDソフトウェアのパッチ適用バージョンは、RSAのWebサイト(<http://www.rsasecurity.com>)で入手できます。QCCR1D18988

タスクのキャンセルまたは削除

一部のNAタスクは、PerlまたはExpectスクリプトの実行や、ユーザが作成した実行可能ファイルやシェルスクリプトの実行に、外部プロセスを生成します。生成されたタスクをキャンセルまたは削除したとき、NAは外部プロセスを終了できないことがあります。この問題は、終了信号を取得するようにコーディングされたサブプロセスやプロセスでも発生します。QCCR1D16257

回避策: NAサーバ上の外部プロセスを手動で終了してください。

タスク: 31日にスケジュール指定されているタスクが1日に実行されることがある

月次タスクを31日に実行するようにスケジュール設定し、31日に満たない月にこのタスクを実行すると、31日に満たない日数に応じて、翌月の1日、2日、3日のいずれかにタスクが実行されます。たとえば、30日にスケジュールしたタスクを2月(28日)に実行すると、3月2日に実行されます。月末にタスクを実行したい場合は、日付を正しく設定する必要があります。QCCR1D11142

インベントリ: デバイスのデータによって、手動入力した値が上書きされる

[デバイス詳細]ページ(および他のページ)では、一部データが自動入力されます。このデータを手動で変更すると、次のスナップショット発生時に自動的に上書きされてしまいます。QCCR1D11942

次のデータが自動入力されます。

- ドメイン名
- ホスト名
- モデル
- シリアル番号
- 場所
- ベンダー

コンソールサーバ: SSHアクセスがサポートされない

NAは、SSH経由でのコンソールサーバアクセスをサポートしません。コンソールサーバでデバイスにアクセスする場合、Telnet接続が必要です。つまり、[デバイスの新規作成]ページと[デバイスの編集]ページにある[コンソールサーバ情報]セクションで[デバイスへのアクセスに使用]をチェックした場合、[接続情報]セクションでも[Telnet]オプションを選択するようにしてください。QCCR1D11402

レポートを外部電子メールアドレスに送信

NAでSMTPサーバ接続が正しく設定されている場合でも、ネットワークセキュリティ上の理由から、NAサーバからのメッセージを拒否するようにSMTPサーバが設定されている可能性があります。このような場合には、次のエラーメッセージが表示され、NAメッセージは配信されません。

```
Error occurred when sending email.Please check the email address and/or your SMTP server settings.
```

この問題が発生したら、NAサーバによる電子メールのリレーをSMTPサーバで設定する必要があります。QCCR1D15982

リリースノート

お客様からのご意見、ご感想をお待ちしています。

お客様からのご意見、ご感想をお待ちしています。

本ドキュメントについてのご意見、ご感想については、電子メールで[ドキュメント制作チーム](#)までご連絡ください。このシステムで電子メールクライアントが設定されていれば、このリンクをクリックすることで、以下の情報が件名に記入された電子メールウィンドウが開きます。

Feedback on リリースノート, 2014年8月 10.00 Network Automationソフトウェア

本文にご意見、ご感想を記入の上、[送信]をクリックしてください。

電子メールクライアントが利用できない場合は、上記の情報をコピーしてWebメールクライアントの新規メッセージに貼り付け、ovdoc-nsm@hp.com宛にお送りください。